

## 身近な人を大切にする

(原文)

田中 翔 (14 歳)

茨城県

茨城県立古河中等教育学校

みなさんは、自分が大切にしている価値観について考えたことがありますか。僕が大切にしている価値観は「周りの人の存在を大切にし、お互いのことを尊重し合う」ということです。

僕は食物アレルギーを持っており、小さい頃から本当に多くの方のお世話になりました。家族はもちろん、親戚の方や近所の方、病院の先生方。病気で苦しい思いをしている間もずっとそばで支えてくれました。様々な面で周りの人に助けられてきたからこそ、その重要性を強く感じています。

また、学校生活でも周りの人の重要性を感じる場面がよくあります。例えば去年の文化祭、学級委員長を務めていた僕は、クラス全体をまとめたりしました。なかなか物事がうまくいかなかったり、良いアイデアが浮かばなかったりすることが毎日のようにある中で、それらを少しずつ解決に持ち込んでくれたのは、クラスのみんなでした。クラスのみんながどんな意見でも尊重し、協力し合っていたからこそ、スムーズに準備を行えたのだと改めて感じました。

このように周りの人の存在の大きさについて考えてみたとき、人間はお互いに助け合い、支え合っているのだと思うと、なにか胸に来るものがあります。

しかし、世界を見てみると残念なことに差別を受けている人がいまだ少なくありません。僕にはその理由が全くわかりません。かつて元アメリカ大統領のエイブラム・リンカーンは「私は奴隷になりたくない。だから、奴隷を使う身にもなりたくない。」という言葉を残しています。僕はこう言いたいです。「私は差別されたくない。だから、差別をする人にもなりたくない。」と。この言葉は、ごく当たり前のことです。それでも、この地球から「差別」が消えてくれないことに激しい怒りを覚えます。

僕には、難病を持つ友達があります。本当に苦しい思いをしたこともあったそうです。その深い苦しみは、僕には想像もすることができません。それでも常に前向きに考える、その明るさには心を強く打たれました。人と違う。それがため、普通の人には当たり前に行えるのに、自分だけはどうしてもできない。僕も病気を持っているので、その悲しさ、苦しさは、本当によく理解することができます。

人間は、決してみんなが平等に生まれてくることはありません。裕福な人もいれば、貧しい人もいます。健康な人もいれば、重い病気を持って生まれてくる人もいます。だからこそ、お互いに支えあうことが重要なのです。特に、生まれてからずっと苦しい思いをしてきた人には。

そんな僕は、人と人との違いに関わらず、お互いのすべてを尊重し合える社会を作り上げていきたい

です。ただでさえ、ハンディキャップを負い、苦しい思いをし続けているのに、その人のことを支える人がいない。このことほど、悲しいことはありません。もしも、誰もが自分の存在を大事に思える社会ができれば、これを越える嬉しさはありません。

ここまで、僕の価値観について書いてきました。価値観は、人によって違います。お互いの考えが異なっていて、ときに対立することもあるかもしれません。しかし、だからこそお互いの考えを尊重し、協力し合うことが大切になってくるのではないのでしょうか。

「家に帰り、家族を大切にしてください。」この言葉は、平和な社会を目指すためにできることを問われたマザー・テレサが答えたものです。家族、ご近所の方、友達、学校の先生。みなさんは普段、十分に大切にされていますか。これを機に、改めて自分のことを見つめて、考え直したいと思います。世界中の人が、身近な人を愛し、大切にできるようになったら、きっと、誰もが理想とする平和が実現されることでしょう。